

会 議 録

会議の名称	令和5年度第1回 三郷市障がい者就労支援ネットワーク会議		
開催日時	令和 5年 8月 16日 (水)	開 会	13時30分
		閉 会	15時00分
開催場所	三郷市役所7階 農業委員会議室		
出席者	構成機関	<p>(出席人数 14人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草加公共職業安定所 ・埼玉県障害者雇用総合サポートセンター 定着支援部門 ・東部障がい者就業・生活支援センターみらい ・埼玉県立三郷特別支援学校 ・埼玉県立越谷特別支援学校 ・就労移行支援事業所 ラ・ポルタ ・就労移行支援事業所 カルディアみさと ・就労継続支援A型事業所 ブルースカイ三郷 ・就労継続支援A型事業所 インスピリット ・就労継続支援A型事業所 こころ ・みさとメンタルクリニック 精神科デイケア ・三郷市障がい福祉相談支援センター パティオ ・三郷市障がい福祉相談支援センター みさと中央 	
	事務局	<p>(出席人数 4人)</p> <p>福祉部副部長兼障がい福祉課長 島村 文香 障がい福祉課長補佐 菅谷 雄一 障がい福祉課障がい者就労支援係長 山中 崇生 障がい者就労支援係主査 櫻井 祐輔</p>	
次 第	<p>(1) 各機関の概要・状況について</p> <p>(2) 三郷市障がい者就労支援施設等事業所ガイドブックの更新について</p> <p>(3) その他</p>		
配布資料	次第・資料		

会議の経過	
発言者	発言内容・決定事項
事務局	資料確認、録音の了承
事務局	<p>1. 開会</p> <p>2. 開会挨拶 島村障がい福祉課長</p> <p>3. 議事</p> <p>「(1) 各機関の概要・状況について」</p> <p>● <u>三郷市障がい者就労支援センター</u></p> <p>三郷市障がい者就労支援センターは、三郷市に住民票がある障がいのあるかたの就労に関する相談を受けています。その方が「長く安定して働ける」よう支援を行っています。また、市内の事業主や三郷市の従業員がいる事業主の相談も受けています。利用には登録が必要です。登録後は、就職前の支援として、就労のイメージづくりや適性相談、求職支援、面接同行、実習支援、通勤支援などを行っています。就労後は、企業とご本人の間に入り、長く安定して働けるように定着支援を行っています。三郷市障がい者就労支援センターの状況について、職員体制は、係長1名、ケースワーカー4名、事務1名で運営しています。登録者数は、前年度末の3月時点は516名、前々年度は517名、1名減っています。今年度7月末時点では、538名、増加しています。これは去年が前年に比べて登録件数が少なく、かつ、登録抹消が多かったことが要因と考えています。登録抹消の件数が多かった理由は、状況把握ができていないケースに対し、本人や関係機関に状況確認を行った結果、現状では支援希望がなく、登録を抹消になるケースが多かったためです。今年度は登録数が多く、抹消は少ないため、件数が伸びている状況です。就労者数は、前年度末の3月の時点で347名、就労率は約66%です。今年度7月末時点では362名、割合は約67%です。直近一年間は、65%から67%の就労率を維持しています。去年度の当センターの登録に関する相談は、121件です。令和3年度が137件、令和2年度が76件です。コロナが落ち着き始めた令和3年度から相談件数が増えています。コロナ前は、約100件の相談件数のため、コロナが明けてから相談件数は増えている状態が続いています。三郷市障がい者就労支援センターの相談経路は、約3割がハローワークからの紹介で、2割が本人・家族からの相談です。残りの5割は、障がい福祉課などの市役所内からの案内、障がい福祉相談支援センター、就労移行支援事業所です。</p>

<p>構成機関</p>	<p>● <u>ハローワーク草加</u></p> <p>草加市・三郷市・八潮市に住む就職希望者の登録から職業相談、職業紹介を行っています。一般・障がい・外国人以外にも事業所や会社へも対応しており、会社に関する地域限定で草加市・三郷市・八潮市の会社から求人を受け付けしており、インターネットサービスで希望されていれば、公開しています。障がい者向け求人の閲覧が可能です。パソコンがあれば自宅でも求人票の印刷が可能です。事業主から6月1日時点での障害者雇用状況報告書の提出を求めています。令和6年から民間企業の障がい者の法定雇用率が2.5%に引き上がり、障がい者雇用の推進が求められます。障がい者の法定雇用率が不足している事業主に対して、関係機関の協力を得ながら、障がい者雇用の不足を解消するように努めています。令和4年度の障がい者の就職数は、令和3年度と比較して、県全体で142件(3.5%)増加しています。障がい種別としては、精神障がいが514件(27.6%)増加し、他の障がい種別は、令和3年度に比べると下回っている状況です。</p>
<p>構成機関</p>	<p>● <u>埼玉県障害者雇用総合サポートセンター 定着支援部門</u></p> <p>県内の企業・支援機関の支援をするという目的で設置されております。埼玉県障害者雇用総合サポートセンターは、埼玉県独自の事業で他の都道府県にはない機能です。県内の企業・支援機関を支援として、中心となるのはジョブコーチ支援です。企業・支援機関から依頼を受けて、一定期間、職場に入って、障がい者と企業に対して、適応支援をしていく。障がいのある方が就労移行支援事業所、就労継続支援事業所を利用して、センター（障害者就業・生活支援センター、市町村障がい者就労支援センター）に登録しているかたがジョブコーチ支援の条件です。就労アセスメント支援は、幕張版ワークサンプル（MWS）の検査キットを使い、職業評価をおこない、障がいをお持ちの方の適正・準備性を見ていく支援となっています。人員配置としては、ジョブコーチ5名、アセスメンター2名、アドバイザー・サブアドバイザー各1名、統括1名、総勢10名で活動している。埼玉県障害者雇用総合サポートセンターは、3つの部門がある。ジョブコーチ支援やアセスメント支援を行っている定着支援部門のほかに企業を中心に支援する部門（雇用開拓・企業支援）があります。</p>

構成機関

● 東部障がい者就業・生活支援センターみらい

東部障がい者就業・生活支援センターみらいは、東部ということで、埼玉県の東側（草加市・越谷市・春日部市・八潮市・吉川市・松伏町・三郷市）が対象、事業所は草加市にある。就業「生活」支援センターとなっており、「生活」が、市町村障がい者就労支援センターと大きな違いです。就業に伴う一体的な支援を行っていますが、生活がどこまでの支援内容なのかとよく質問されますが、特に線は引いていません。グループホームの相談やSNSトラブル、家族の障がい、家族の高齢化に伴う相談等があります。直接的に対応をするのは人手が足りないため、相談支援の方へ繋いでいくということを含めての生活の支援を行っています。埼玉県にある10か所の障害者就業・生活支援センターのうちの1つです。厚生労働省から、障害者就業・生活支援センターの立ち位置として、何でも任されてしまう状況から脱却をするよう言われています。そのキーワードとしては基幹型センター、地域のHUB的機能という事が言われています。本会議のように、他市に呼んでもらい、他市の障がい者就労支援センターなどをスーパーバイズして、地域貢献していくことを、今後は考えていかなければならない。課題として、就労の相談を受けるにあたり、職場実習の受け入れ先が減っています。我々の守備範囲のなかで就労移行支援事業所と関わる機会が多いのですが、就労継続支援B型事業所と関わる機会があまりありません。一般就労させたいという思いもあるが、準備性が足りない人からの相談が多い傾向があります。就労継続支援B型事業所に通っていて、一定の生活リズムが出来ており、一定の仕事ができる人を創出しなければなりません。埼玉県から就労継続支援事業所に通所している方への就労の推進が求められています。就労継続支援A型事業所・就労継続支援B型事業所の方の就労を取り組まなければなりません。実習から1名、就職に繋げることができました。

構成機関

● 埼玉県立三郷特別支援学校

本校は、三郷市・八潮市・吉川市の3市を学区としています。知的障がいの児童が対象です。全校322名、高等部120名、高等部3年生は34名、三郷市在住は18名、生徒数は毎年多くなっています。今年の高等部1年生は48名、年々増加しております。高等部2年生・高等部3年生は6月～10月で2回実習をします。高等部3年生の進路先は未確定ですが、三郷市在住18名のうち、企業就労を希望していて、実習を行っている生徒は5名です。また、就労移行支援事業所は2名、就労継続支援A型事業所は2名、就労継続支援B型事業所は2名です。昨年度の就労移行支援事業所は、8名が進路先に選んでいました。毎年、生徒の実態が異なっ

ているので、実習でお世話になりながら、本人に合った進路選択になっていますので、進路先としては、多種多様な形になっていると思っています。進路の課題としては、選択肢がたくさんある中で、本人・保護者が正しいステップアップの理解をするために情報をどのように提供していく必要があるか。その上で見学をして本人に合った進路先を選択してもらう。選択肢があるが故に、正しい情報の選択を選べるかという情報選択について、どのように提供すべきなのか、情報の提供が本人にとって有益なのかを考えながら行っています。本校の来年度の情報として、埼玉県立三郷北高等学校内に分校が開校します。1学年16名。入試を行い、企業就労を目指す人が対象になります。

構成機関

● 埼玉県立越谷特別支援学校

本校は、肢体不自由の方の特別支援学校です。身体障がいの中の肢体不自由。肢体不自由の方の就職者数はあまり変わらない、もしくは、どんどん下回っている状況と思います。本校の状況は、全校230名。小学部から高等部まであります。三郷市在住の生徒も多く通っているのですが、本校の立地が、越谷市の北部にあります。片道の車でも1時間以上かかる所で、生徒は、ほぼ全員がスクールバスで通っています。就職を考えたときに、スクールバス以外を考えますと、自主通学があるのですが、なかなか現実的ではありません。片道、電車やバスを使って通うとすると、片道2時間かかかってしまうので難しいというのが現状です。高等部1年生で、就職出来るなら働いてみたいという方が3名、歩行可能な生徒が1名、車いすを使用している生徒が2名です。肢体不自由だと就職は難しいイメージはありますが、希望を持っている生徒もいるので、いろいろ情報交換を行い、可能性を考えていきたいと思います。また、三郷市だけではなく、本校は学区が広く、いろいろな生徒がおります。例えば脳性麻痺、高次脳機能障がい、難病です。また、医療的ケアのある生徒で一般の生徒と同じような授業を受けている生徒もいます。気管切開や酸素吸入をしながら日々生活をしている生徒もいます。様々な障がいがある生徒が働きたいと希望を持ち始めるのも、近い将来あるのではないかと考えています。

構成機関

● 就労移行支援事業所ラ・ポルタ

ラ・ポルタは市内に2か所ありまして、早稲田と三郷中央駅から徒歩5分ぐらいの所で運営しております。2事業所、合わせて現在26名の方にご利用をいただいております。身体の方、療育の方、精神の方がおり、様々である一方で、現状は精神の方が多い印象です。男女比で申し上げますと、

	<p>男性の方が多く、早稲田に関しては男性がほとんどです。最近では、就労を希望している方もいますが、就労移行支援事業を居場所として利用していると個人的に思ってしまう方もいます。就労移行支援事業の場合は、2年という枠の中で就職というゴールを目指していくのですが、居場所として捉えている方には、どのような道筋を一緒に考えていけばいいのか、就労移行支援事業のあり方というのを考えなければなりません。事業所の特徴としては、定着支援事業を使っていませんが、就職後のサポートに関しては、半年で終了ではなく、本人から拒否がない限りは、支援を継続していきます。</p>
構成機関	<p>● <u>就労移行支援事業所カルディアみさと</u></p> <p>カルディアみさととは、登録者が24名います。男女比は男性の方が多い。障がい種別では、精神障がいの方が一番多く、次に知的障がいの方、身体障がいの方は2名です。基本的には、就労移行支援事業所では、一般就労を目指しているため、自分で通所します。三郷駅南口から歩いて1分位の立地で、駅近のため、「通いやすい」と、言われています。ここ3年は、コロナ禍で、就職活動も大変厳しかったのですが、5類感染症に以降してから、少し動きがでてきました。企業側の法定雇用率を上げていく動きなので、企業の方も動いてきています。就職活動は、通常ならお盆の時期の前はおさまりますが、今年は企業の動きがあつて、他機関とも連携して就職活動を行っています。</p>
構成機関	<p>● <u>就労継続支援A型事業所インスピリット</u></p> <p>インスピリットの利用契約者数は48名います。内訳は、精神の方が一番多くて、そこから知的、身体、難病と続いております。直近7月時点では、実際に利用している利用者は46名、2名が休職扱いです。うち1名は、ご病気の関係で作業能力が落ちてしまい、ADLやモチベーションの低下がみられておりますので、その方に関しては、今年の2月に就労継続支援B型事業所を別事業所として、オープンしていますので、就労継続支援B型事業所を案内し、日中活動を続けられるように対応しています。利用者数が多いですが、一日の平均利用者数は、33名程度ですので、まだ受け入れはできる状況です。一般企業への就労について、昨年度は3名で、今年度は3名が確定しており、1名が見込みとなっております。</p>

<p>構成機関</p>	<p>● <u>就労継続支援A型事業所ブルースカイ</u></p> <p>ラインアローは、4事業所あり、千葉県内に3事業所、埼玉県三郷市内に1事業所です。3障がいの方々が働いています。課題として、就労継続支援A型事業所から一般就労が、就労継続支援A型事業所に入ってしまうと安心してしまうという現象が起きてしまっていて、就労継続支援A型事業所をステップアップとして、上に行こうという方々が、年々減ってきているように感じています。事業所としては、幅広い仕事を増やしていきたいと思っています。生産活動についての営業活動を行っていて、安い内職は切っており、生産性と効率性で、いろいろな仕事に営業を掛けている所です。主に現時点での仕事は軽作業、内職業です。自社製品の製造と販売（ポップコーンの製造と販売）、あとは、物流倉庫での補充作業などです。就労継続支援A型事業所の課題ですが、いつも生産性を考えています。通所されている方々は、就労移行支援事業所にいた方、就労継続支援B型事業所にいた方、最近では特別支援学校から来られる方もいます。</p>
<p>構成機関</p>	<p>● <u>就労継続支援A型事業所 ころこ</u></p> <p>今年4月に開所した就労継続支援A型事業所で、福祉では初めての事業所です。運営母体が葛飾区金町の中華料理店で、13年目になります。8年前から弁当事業を始めて、コロナ禍によって、弁当の需要が伸びて、飲食店舗の営業が難しくなったので、弁当事業に注力しています。夫婦で経営している店舗で、広くないので、弁当の注文が100個、200個になると作れないため、三郷市戸ヶ崎に広い場所を借りて、弁当の工場を作りました。工場では、お昼1日400個前後の弁当を作っており、夕方には、病院などから依頼があり、別途作成して配達している。母体が飲食事業で、事業の提供は弁当作成がメインであり、弁当作成や配達、販売が大きな柱になります。飲食店での接客が好きな方は金町の店舗に行つての接客や調理が好きな方は調理補助ができます。変わった特色ですが、4年前から苗場プリンスホテル内で中華レストランと焼き肉レストランを運営しており、服薬や通院の兼ね合いもあつて難しいとは思いますが、ホテルで働いてみたい方や住み込みで仕事をしてみたい方に、1週間から3週間程度、住み込みで仕事をするができます。現在、就労継続支援A型事業所ころこの職員は、サービス管理責任者兼管理者1名、職業訓練指導員2名、生活指導員1名、賃金計画向上指導員1名、合計5名です。もともと友心という店舗があつて、工場が2年半前位から稼働しています。障がい者雇用は、知的障がいの方と精神障がいと知的障がいの方を、2年前から2名雇用しており、勉強させていただき、分かりやすく指導できる環境は、整</p>

っています。母体の友心を含めると、社員数7名、アルバイト8名で15名のスタッフでお迎えします。就労継続支援A型事業所ところは、8月に雇用契約する方が1名、実習を控えている方が3名、利用を検討されている方が1名います。スロースタートではありますが、ゆっくり皆さんと向き合って、勉強させていただければと思っています。福祉の事業が初めてなので、お仕事は楽しい、誰かの笑顔に繋がっているというのを伝えていきたいと思っています。

構成機関

● みさとメンタルクリニック精神科デイケア

デイケアは登録者60名位で、年齢構成は40代の方が20名位、あとは20代30代50代がそれぞれ10名位ずつになっています。同法人内のみさと協立病院とみさとメンタルクリニックのデイケアの利用者の違いは、疾患構成で、統合失調症の方が少ない。みさと協立病院よりもみさとメンタルクリニックは、統合失調症の初発の紹介が少なく、病床がないことが関係しています。また、最近では、統合失調症の方は、他の診断名（発達障がいとか）がつくことが増えてきています。利用者は、三郷市の方が半分位です。居場所として、来るだけで精一杯という方もいますが、疾患に関わらず、ほとんどの方が就労を意識しています。全く意識していないのは、ごく一部の方で、現状では無理と思われる方でも、意識している方が多くいます。就労のプログラムを始めていますが、参加者は少ないです。しかし、参加しない人が就労プログラムについて気にしています。本当は働きたいが、就労に関わるのが辛く、焦って具合が悪くなることがよくありますので、気にしながら運営しています。

構成機関

● 三郷市障がい福祉相談支援センターパティオ

三郷市障がい福祉相談支援センターパティオは、三郷市の北部エリアを管轄としています。令和3年までは、三郷市全域を対象としていました。6月末現在の登録者は、1,563人です。登録者数は増加して、計画相談は493名です。毎月の実績では、一般相談より計画相談の方が多くなっています。児童の相談がとても多く、保護者から、医療的ケア児や放課後等デイサービス事業、児童発達支援事業などの通う場所の相談が、多くなっています。最近では、医療的ケア児の相談が多く、受け入れ先やサービスが見つからないケースがとても多く、課題がまだまだあると感じています。世帯全員が障がいや8050問題などの他問題ケースも多くなっています。介護保険のサービスと併用で賄いきれないため、何か利用できるサービスはないかという地域包括支援センターからの相談が多く、最近では、

	<p>90代の方もいます。就労継続支援B型事業所パティオは、19歳から74歳まで受け入れています。現在、登録者数が39名です。月平均17名が利用しています。</p>
構成機関	<p>● <u>三郷市障がい福祉相談支援センターみさと中央</u></p> <p>当センターは、令和3年1月に開所されて、2年半が経ちました。三郷市より、委託を受けている事業所で、三郷市の南部エリアを担当しています。職員体制は、所長と常勤3名、計4名です。障がいのある方の様々な相談や各種福祉サービスの紹介、利用方法、情報提供などを行ってプランの作成を行っています。令和4年度の実績は、障がい者の相談は、全体の約7割が精神障がいの方の相談になっています。障がい児の方は、約6割が、発達障がいの方です。令和4年度の相談件数は、2,494件のうち就労に関する相談は85件と全体の3%程度です。</p>
事務局	<p>「(2) 三郷市障がい者就労支援施設等事業所ガイドブックの更新について」</p> <p>三郷市障がい者就労支援施設等事業所ガイドブックについて、令和元年度より、三郷市障がい者就労支援ネットワークから発行している三郷市の障がい者就労支援にかかわる事業所を掲載したガイドブックです。令和元年の発行から、令和3年に全体的な更新を行っています。令和4年は一部更新しています。(事業所の移転やフォントをユニバーサルデザインに変更)令和5年度に全体的な更新を行っています。令和3年、令和5年と2年ごとに全体的な更新をしています。</p> <p>前回からの更新内容について、掲載機関のご協力のもと、掲載内容を令和5年4月1日現在の内容で更新しました。また、新規掲載機関として、就労継続支援A型事業所こころと就労継続支援B型事業所ハピネスを掲載しています。就労継続支援B型事業所フレンズは、6月に就労継続支援B型事業所レモンカンパニーと合併となり、削除しています。住所の変更は、就労継続支援B型事業所コンパスが、4月末に移転しているため、修正しています。地図は、1ページ目の市内全体のマップを変更しました。以前の地図よりシンプルなものに変更し、一覧を載せています。また、各掲載機関のページの地図に二次元コードを導入しました。二次元コードを読み込むと、各掲載機関の場所がグーグルマップで開くようになっています。次に、「三郷市障がい福祉ガイドブック」の記載箇所に、より確認しやすいように、「三郷市障がい福祉ガイドブック」のホームページにすぐにアクセ</p>

	<p>スできるように、二次元コードを載せました。</p> <p>配布方法は、三郷市のホームページからPDF形式をダウンロードができます。次に、製本印刷分は、障がい者就労支援センターと障がい福祉課の窓口で配布いたします。また、配布開始時には、関係機関等への配布を行います。掲載機関と本会議の構成機関、市内医療機関、高等学校、中学校、放課後等デイサービスに配布を検討しています。</p> <p>周知方法は、三郷市のホームページにて掲示と関係機関への製本分の配布を行う他に、広報みさと11月号に記事を掲載するように調整しています。</p> <p>今後のスケジュールは、8月末まで掲載機関への最終の修正確認を行います。9月上旬にまとめて、中旬から下旬で製本印刷を行います。ホームページ等の掲載の準備を行い、10月上旬に配布を行う予定です。</p> <p>次の更新時期は、令和6年度は事業所の移転などの変更点があれば一部更新を行い、令和7年度に全体的な更新を更新をしたいと考えております。</p>
構成機関	<p>【質疑】</p> <p>就労継続支援B型事業所の作業内容は、よく分かるが、特別支援学校の保護者からよく聞かれる意見として、送迎サービスについて聞かれることが多いです。内職作業など作業能力としては可能ですが、立地的に自力で通うことが難しい児童が多く在籍しています。保護者の方もお仕事をされている方が多いので、送迎サービスを行っている事業所があると伺っているので、ガイドブックでも、送迎サービスを行っている事業所を記載していただけると、保護者の方々も見学などにより足を運びやすくなると思います。</p>
事務局	<p>【回答】</p> <p>次回、更新の際には、送迎サービスや利用料金等の標記方法も含め、より情報が確認しやすい標記を検討できればと考えております。</p>
構成機関	<p>【質疑】</p> <p>実際に窓口で配布した数は何部位になるのですか。</p>
事務局	<p>【回答】</p> <p>窓口での配布数は記録として残していないため、正確な配布数は分かりません。令和4年度発行分については、約350部配布しています。当初配布分が約200部、追加配布が約150部です。</p>

事務局	<p>次回会議につきましては、令和5年1月下旬頃を予定しておりますので、宜しくお願い致します。</p> <p>以上をもちまして、議題につきましては終了とさせていただきます。</p>
事務局	<p>4. 閉会 閉会挨拶 障がい福祉課 菅谷課長補佐</p>